男女共同参画社会の実現に向け、身の回りで感じる「男女平等への想い」などを詠んだ一行詩を募集したところ、全国から3,425点の作品が寄せられました。数々の力作の中から入賞作品が決まりましたので、ご紹介します。(敬称略)

第13回

女と男の一行詩

最優秀賞

会社で新人 育児も新人 妻もがんばる 俺もがんばる

神奈川県川崎市 柿崎 寛明

選評 核家族の中で夫婦二人が精一杯がんばっていく意気込みが感じられます。

※優秀賞

これからは女と男とで創る街

福井県坂井市 辻川 定男

家事育児・園の役員までこなし ママ友多い夫に脱帽

神奈川県秦野市 丸橋 弥生

※入選

認め合う心と心が育てる社会

三重県桑名市 兼岩 幸男

グチャグチャの夫の手料理 喜ぶ子供 こっそり下味つけておいたの

神奈川県川崎市 山口 大志

味気なきカードで引き出す給料日 夫に慰労の言葉を忘る

山陽小野田市 荻山 愛子

子育てや 夫休暇の企業増え 共同参画 未来明るし

滋賀県野洲市 吉田 節夫

専業主婦 たまには有休 取りたいな

東京都文京区 小松 美紀

手伝うと 妻の苦勞が分かる家事

兵庫県姫路市 関 かおり

リハビリと云いつつ夫と握手する 麻痺したる手をあたためながら

福岡県福岡市 志村 美子

※特別賞

実力は性別こえた 努力の差

静岡県三島市 (日本大学三島高等学校) 古矢 航之介

支え合う 家庭はいつも 笑顔満開

山陽小野田市 (小野田高等学校) 御手洗 里美

男女共同参画週間講演会

〈演題〉

「人生をもっと楽しむ～一石三鳥のススメ」

- とき 6月25日(土) 13:30～15:00
- ところ 市民館 (聴講料無料)
- 講師 西川 壮一 (余暇生活開発士・遊太郎荘代表)
- 問い合わせ先 協働推進課 (☎82-1134)

※来場者には、「第13回女と男の一行詩」の冊子を配布します。

講師プロフィール Profile

昭和59年、裁判所に入所。平成5年、男性として県内3番目に育児休暇を取得。平成6年、余暇生活開発士の資格を取得。平成23年3月、辞職し、就農。裁判所勤務時代から男女共同参画の実践とワークライフバランスの適正化について講演を行っており、自らの体験に基づいた楽しい語り口が好評を博す。